

ツナグ

平和への祈り

太平洋戦争が終結してから、今年で80年。当時のことを知る人も少なくなり、戦争の記憶が薄れようとしています。

「平和を守るため、戦争の悲惨な記憶の灯を消してはならない」と、体験談を語り続けている人がいます。そんな体験者の意志を引き継ぎ、さまざまな手法で伝えている人がいます。こうした活動は、若い世代にも届き、自ら学び、行動へとつながっています。さまざまな世代による、「平和への祈り」をつないでいこうとする活動を紹介いたします。

問合せ▼文化交流課(☎291・3846)



水戸空襲から1か月後の水戸市(現在の水戸中央郵便局から見た南町方面)を撮影した様子 (出典：水戸百年)

降り注いだ焼夷弾

昭和20(1945)年8月2日、午前0時31分、茨城県女子師範学校(現在の五軒小学校のあたり)に一発目の焼夷弾が投下され、水戸空襲が始まった。

水戸空襲は、アメリカ軍が目標として定めた中小都市への空襲の一つとして、太平洋戦争が終盤に近付いてきた頃に行われた。水戸市が選ばれた理由は、常磐線の主要な輸送基地であったこと、日立市にあった軍事工場の労働力の重要な供給源で、下請けの中心だったためと言われている。

空襲に参加したアメリカ軍のB29は、全部で160機。高度約4000メートルから、次々と焼夷弾を投下していった。その数は何と、1万7890発。焼夷弾は、水戸駅や市役所、水戸城、東照宮、常磐神社など、多くの建物を破壊し、市街地を焼き尽くした。消火



焼夷弾が落下する様子。投下後、内蔵する小さな焼夷弾が広範囲に飛び散る仕組みだった。(出典：水戸空襲戦災誌)

水戸空襲での被害

死亡者数	241名(後の調査により300名以上と判明)
重症者数	144名
軽症者数	1,149名
罹災戸数	10,104戸(全市戸数の約9割)
罹災人員	50,605名(全市人口の約8割)

(出典：昭和20年度事務報告書)

焦土と化した歴史と伝統のまち

翌朝、人々が目にした光景は、恐ろしいものだった。あたり一面に広がるがれきの山。無事な建物はほとんどなかった。茨城県女子師範学校の大運動場には、焼夷弾の残骸があたり一面に突き刺さり、戦慄を覚えるすさまじい光景が広がっていた。

水戸空襲は、歴史と伝統を誇った水戸市を焦土と化し、市民に忘れ得ぬ深い傷跡を残した。

ちは体験しているのです。人間は過去を忘れてしまうと、同じ失敗を繰り返す生き物です。だからこそ、戦争体験者の私たちが、語っていかなければなりません。繰り返して話していけば、必ず子どもたちの心に届くと信じて。



水戸市語り部 小菅 次男 さん

忘れられない光景を 残した水戸空襲

私が7歳だった時に、水戸空襲がありました。現在の常陽銀行本店付近にあった防空壕に避難してすぐに、ゴーツと飛行機の轟音が響き渡り、ヒュルヒュルと音を立てて、焼夷弾が降ってきました。すると突然、ドンツ、という大きな音が響き渡り、夜の暗闇が一気に明るくなりました。近くに焼夷弾が落ちたのです。「もうだめだ。逃げるぞ!」緊迫した父親の叫び声を皮切りに、那珂川の方へ避難し始めました。

外はいたるところが燃え上がっていました。県高等女学校現在の水戸二高は2階まで真っ赤になり、裁判所も火の海となっていました。必死で家族の後をついて避難先に向っている途中で、私は家族を見失ってしまいました。「お母さん!お母さん!」。何度叫んでもその声は届かず、一人ぼっちになってしまいました。そんなとき、顔見知りの家族が声をかけてくれて、一緒に東武館の先の竹やぶの中に避難しました。避難中も、焼夷弾が何発も降り注ぎ、近くで炎が上がるたびに逃げ回りました。

戦争が存在する前提の世界ではいけない

現在でも、世界中で戦争が起こっている状況に、悔しい気持ちでいっぱいです。なぜ同じ人間同士で殺し合うのでしょうか。戦争が存在する前提の世界ではいけない。それを分かってもうたため、今も語り部活動を続けています。戦争は、今の子どもたちにとっては絵空事かもしれません。しかし、この日本でも、戦争は確かに起こり、私た

貴重な戦争体験の 声が視聴できます

さまざまな戦争体験をした方のインタビュー映像を、市公式YouTubeチャンネルで配信しています。

こちらで視聴 できます⇒



市戦没者追悼式／戦後80年平和を学び・つなぐ集い

先の大戦で犠牲になった方を追悼するとともに、遺族の労苦に敬意を表し、市勢発展への決意を新たにするため、また若い世代に戦争の悲惨さを伝え、平和の尊さを再認識するために、追悼式を開催します。追悼式後、戦争体験の証言映像をもとにした上映や、戦争紙芝居の上演などによる、平和を学び、語り継ぐ集いを開催します。

8/26(火)追悼式…13:30~14:30 平和を学び・つなぐ集い…14:40~15:40 場 市民会館 対 市内に居住する方 料 無料 申 当日受付 問 福祉総務課(☎232-9169)



語り継ぐ



小菅さんの話に熱心に耳を傾ける妻里小学校4年生



朗読をする見澤さん(左)と副代表理事の岡野 恵さん(右)



一般社団法人 オリーブ協会
代表理事 見澤 淑恵 さん

紙芝居をとおして多くの人に 戦争の悲惨さを伝えたい

引き継ぐ

「語り部さんからお話を聞いたことが、私の活動の原動力になっています」。そう話す見澤淑恵さんは、戦争に関する絵本や紙芝居の朗読などをおして、戦争のことを語り継ぐ活動をしています。朗読は、ただ読むだけではなく、読む題材の背景を知ることが大切だと考える見澤さん。これまで、さまざまな語り部の話を聞いてきました。特に印象に残っているのは、広島で原爆を体験した茂木貞夫さんの話です。登校途中に被爆し、ひどいやけどを負ったこと。お母さんが一生懸命自分の名前を呼び続けて介抱してくれたこと。

「私たちの世代が語り継いでいかなければ、終戦から80年を迎える今年。語り部の数は、ますます少なくなっています。」「若い世代に語り部さんの経験や起こったことや、当時の人々の暮らしなどについて知ってからは、「この人はこのルートを通って避難したんだ」「当時の水戸市の外灯はこれだけ暗かったんだ」ということなどを、具体的に想像してもらおうのです。子どもたちにも知っている映画やアニメの描写から想像を広げてもらいます。このような作業をとおして、自分が体験したことのない苦しみや恐怖を、当時の人々は戦争で味わったのだと、より具体的に理解してもらおうのです。イメージを膨らませてから朗読することで、参加者の表現力は格段に上達していきま

す。ワークシヨップの最後に行う朗読は、臨場感があふれ、塩谷さん自身も圧倒されるといいます。戦争誌をとおして、水戸空襲を追体験したからこそ、出せる迫力がそこにはあるのです。

私たちの世代が語り継いでいかなければ

戦争の背景を知ってから朗読する

毎年、参加者に「水戸空襲戦争誌」を朗読してもらうワークシヨップを開催している塩谷亮さん。もともとは、「びすプロジェクト」の事業の一つとして、自ら戦争誌を読んで伝える活動をしていましたが、参加者に読んでもらった方がより戦争を体感してもらえないのではないかと考え、現在のようないかに開催するようになりました。ワークシヨップには、小学生から大人まで幅広い世代が参加します。その中で、塩谷さんが参加者に伝えていることは、体験者になりきること。空襲

加者の表現力は格段に上達していきます。ワークシヨップの最後に行う朗読は、臨場感があふれ、塩谷さん自身も圧倒されるといいます。戦争誌をとおして、水戸空襲を追体験したからこそ、出せる迫力がそこにはあるのです。

戦争を自分事として考えていく

想像しながら戦争誌を朗読し、 当時に思いを馳せてほしい

引き継ぐ



水戸芸術館専属劇団ACM所属
塩谷 亮 さん

「戦争とは何なのか、僕もはっきりとした答えが分かっています。だからこそ、この活動を続けながらその答えを探し続けたいと思っています。皆さんも、水戸空襲だけでなく、原爆のことやほかの地域の戦争のこと、何でもいから、8月だけは少し深く調べてみてほしいです。」

平和とは、水面の上にあるような不確かなもの。だからこそ、一人一人が、戦争を自分事として、平和への意志を強く持ち続けなければなりません。平和を守り続けるために、塩谷さんの活動は続きます。

朗読会に向けて指導する塩谷さん(右)と参加者の皆さん

戦争誌をとおして 水戸空襲を追体験する

水戸空襲のあった8月2日。この日、塩谷さんは、「水戸空襲戦争誌」の朗読会を行います。毎日戦争のことを考えるのは辛く難しいことですが、せめて節目となる8月だけでも、当時の状況に思いを馳せてもらいたいと考えているか

びすプロジェクト

水戸空襲をはじめ、風化しつつある戦争の記憶を若い世代に伝え、平和の大切さを考えるプロジェクト。平和記念館、市立博物館、水戸芸術館、内原郷土史義勇軍資料館の4館連携で毎年開催しています。

水戸空襲戦争誌を販売しています

戦時の水戸のありのままを伝える貴重な資料を読んでみませんか。在庫がなくなり次第販売を終了します。 ※市内図書館でもご覧いただけます。

料金▶1冊3,000円
問合せ▶文化交流課(☎291-3846)

購入方法など、
詳細はこちら▶



思いをつないでいくためには、私たちの世代が、語り継いでいかなければいけません。そう語る見澤さんは、現在、音楽コンサートや動画制作など、さまざまなジャンルを交えて、戦争についての朗読活動を展開しています。あまり戦争に関心がない人にも、自分の好きな分野をおして、より多くの人に戦争の悲惨さを知ってもらいたいと願っているからです。「戦争の恐ろしさ、平和の尊さを知ると、生き方が変わってくるんです。だからこそ、戦争について知ってもらい、何かを感じてもらいたいんです。」

見澤さんは、戦争を風化させてはならないという思いを胸に、若い世代の心に、平和の種をまき続けます。

若い世代で戦争の紙芝居を伝承しよう ～デジタル化による新たな紙芝居を創る～

問合せ▶オリーブ協会(☎090-2143-8541)
または文化交流課(☎291-3846)

これまでオリーブ協会が行ってきた「戦争の紙芝居」を小・中学生に聞いてもらい、その内容を一緒に考えながら、収録した紙芝居の音や映像を加工し、動画コンテンツ等にデジタル化していきます。こうして、長く残せない紙の資料を半永久的に残そうとする事業です。市と市民活動団体が協働して取り組む事業の一つとして実施しています。

戦争について学んでみませんか



【いま、戦争を語るということ】

ID 0100046

戦争の記憶と時間が封じ込まれた戦災資料と、被爆地広島をテーマに制作された河口龍夫の作品を展示しています。

日 8/24(日)まで 場 市立博物館 料 無料

問 同館(☎226-6521)

—関連イベントも開催します—

・水戸の戦災に向きあう一戦争の記憶を伝えるものたち—博物館資料の解説や、高校生による戦災に関する日記の朗読を行います。

日 8/16(土) 14:00~15:30 場 市立博物館

・ギャラリートーク

日 8/3・17(日) 14:00~15:00 場 市立博物館

※各イベントの詳細は、市立博物館ホームページをご覧ください。

【弓指寛治「不成就者:現代アートが描く義勇軍」】

ID 0096978

満蒙開拓青少年義勇軍の抱く不条理、そして戦争と平和の意味について、弓指寛治の世界観をとおして感じてみませんか。

日 8/1(金)~10/26(日) 場 内原郷土史義勇軍資料館

料 無料 問 同館(☎257-5505)

—関連イベントも開催します—

・ワークショップ
元隊員の親族とともにペーパーアートを作りませんか。

日 10/5(日) 10:00~11:30 場 内原図書館

・家族で収穫体験会

義勇軍ゆかりの農場で収穫を体験しませんか。

日 9/20、10/4(土) 10:00~12:00 場 日本農業実践学園

※各関連イベントの詳細は、内原郷土史義勇軍資料館ホームページをご覧ください。

【平和作文朗読会とパイプオルガン・コンサート】

「わたしたちの平和」作文コンクール入賞者による作文の朗読と、オルガニストの勝山雅世によるパイプオルガンの演奏を行います。



日 8/16(土) 13:30~14:15 場 水戸芸術館 料 無料

問 同館(☎227-8111)

【渡部陽一氏講演会】

戦地での体験や戦場の写真を通して、平和を実現するためにどうしたら良いのかを語ります。



日 8/26(火) 18:00~19:30

場 市民会館

料 無料

問 文化交流課(☎291-3846)

申込みはこちら⇒



【水戸市平和記念館】

水戸市の空襲による被災状況、戦時中の市民の生活などについて、当時の資料や写真パネルを用いて展示しています。

開館時間▶午前10時~午後4時

休館日▶火・水曜日、年末年始、祝日

入場料▶無料

問 文化交流課(☎291-3846)



このほかにも、さまざまな事業を実施します。

詳細はこちら⇒



つないでもらった命 忘れずに生きる

「わたしたちの平和」作文
コンクール 最優秀賞

第一中学校1年

きくち そうま
菊池 颯真 さん



2月に亡くなった曾祖母は、時間があればいつも水戸空襲をはじめとした戦争当時のことを話してくれました。自分を標的にするように降ってくる焼夷弾から必死に逃げ回った人、自分の意志にかかわらず、戦地へ行かされた人のことを想像すると、胸が締め付けられます。

そういった辛い時代を生きてきた人たちが命をつないでくれたおかげで、僕は生まれ、毎日学校で友人と語り合ったり、遊んだりできる。そのことを忘れずに、生き続けていきたいと思っています。

これからも 学び続ける

「わたしたちの平和」作文
コンクール 最優秀賞

渡里小学校6年

いりの あつと
入野 篤斗 さん



桜山へお花見に行ったときに、県護国神社のことを知りました。戦争で亡くなった方の慰霊の塔や、特攻勇士之像などを見て、戦争の悲惨さを知れば知るほど、さらに学ばなければと思い、「水戸空襲戦災誌」を読んだり、阿見町の「予科練平和記念館」の見学に行ったりしました。

戦争が起きないために、一人一人が戦争について学び、平和の尊さや戦争が起きないためにすべきことを考えることが必要だと思います。僕も、戦争についてこれからも学んで、考え続けていきます。

戦争の悲惨さから 目を背けないで

オリーブ協会 水戸二高支部
水戸第二高等学校3年

おおくぼ ちなつ
大久保 千夏 さん(左)

おまた あんり
尾又 杏莉 さん(右)



私たちは、オリーブ協会水戸二高支部として、戦争に関する朗読や紙芝居の上演をしています。

私たちのような若者は、戦争を経験していませんし、戦争のニュースは目を背けたくなる光景ばかりで、自ら知ろうとしたくないかもしれません。しかし、体験者の主観的な光景や感情は、伝え続けて、知ってもらわなければいけないと考えています。

戦争を伝える紙芝居の朗読をとおして、より多くの人に自分事として感じてもらえるように活動を続けていきます。

千羽鶴に乗せる想い

水戸女子高等学校

ふじた まあや
3年 藤田 真彩 さん(前左)

おかべ まや
3年 岡部 真弥 さん(前右)

おの はるか
2年 小野 悠華 さん(後右)

なかざと
1年 中里 みく さん(後左)



私たちは、毎年修学旅行で訪れる「知覧特攻平和会館(鹿児島県)」に千羽鶴を寄贈しています。

平和への想いを抱え、形にしたい人はたくさんいるはずだ。そう考え、今年は「水戸まちなかフェスティバル」などでも折り鶴を募集したところ、数えきれないほどたくさん集まりました。今後、千羽鶴にして、紛争が続いている国の大使館や、戦争に関する施設に寄贈する予定です。

私たちみんなで形にした平和への想いが、さまざまところに伝わってくれることを願っています。

受け
継ぐ

世代を越えて紡がれる 平和への祈り

戦争に関する紙芝居の朗読に参加する人、千羽鶴を折り、戦争に関する施設などに寄贈する人、戦争について調べて、作文に平和への思いを綴る人。若い世代も、自ら戦争について学び、平和に向けて何ができるか考えて、さまざまな形で活動を広げています。こうして、「平和への祈り」は、何世代にもわたって受け継がれていくのです。



駅南平和公園